
ガム。

一柳 紘哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ガム。

【Nコード】
N3197A

【作者名】
一柳 紘哉

【あらすじ】
いつでもガムを噛んでいる。ガムがとてつもなく好きな僕の話。

ガムがとてつもなく好きだと思う。

もう僕はガムなしでは生きていけないのではないかと日々思う。

キシリトールでは無くて、十円で買えるようなガム。それをいつも心から求めている。

キシリトールガムは僕の中ではガムじゃない。ガムとゆうものは口の中がべたべたして、いつまでもしつこくねっとりとした味が残るものしか僕は認めない。

十分。口の中にガムが無い状態になると気持ちが悪くなってしまふ。そう。僕はガムがとてつもなく好きなのだ。

きずけばいつもガムのことを考えてる。

地下鉄の中でガムのことを考え。

夕食のときにガムのことを考え。

セックスのときにガムのことを考えている。

特に、セックスのときにガムをかみながらしないと気が狂いそうになる。

「もう我慢できない。ガム噛んでもいい？」

僕は恋人に尋ねる。

「馬鹿な事言わないで集中してよ」

「集中したいから言ってるんだけど」

「ねえお願いだから馬鹿な事言わないで」

「……ガム噛んでいい？」

「いい加減にして！」

ループ。

僕はガムを噛みたいのにいつも彼女は反対する。

ベルリンの壁より強固な壁を、僕等はつくって崩そうとしない。歩み寄ることもしない。

だからいい加減彼女の事がうざったく感じてきた。

問題は僕のほうにあるのだろうか？

いいや違う。僕のことを認めてくれない彼女のほうに大体の問題はあるはずだ。

ただ僕は少々人よりガムのことを愛しているだけだ。

僕より変わった人なんていくらでもいる。人はみんな変わった所があつてそれに折り合いをつけて生きてるものだ。

僕は異常じゃない。

今日も僕はガムを噛みながら地下鉄に乗り、バスに乗り大学に来た。空はソーダガムのように綺麗な着色料色の空だ。

授業が始まるまでまだ十分もあつたから、僕はコークガムを噛みながら喫煙場に向かった。

コークガムを灰皿に捨てて、ブルーベリーガムを噛む。煙草を吸う時にはいつもブルーベリーガムだと決めているのだ。

クチャクチャ。スー。フー。クチャクチャ。

美味いとか不味いとかをすでに超越した心地よさが僕の体の中を走っていく。

右ポケットに入れておいた携帯が鳴った。

取り出してディスプレイ画面を見た。

僕の恋人からの電話だ。

「もしもし」

「いいかい？三秒以内にガムを口から出しなさい。そうしなければ私はあなたを許さない」

「あなた誰ですか」

「そんな事は関係は無いのだよ、いいから早く口から出しなさい」

「そんな権利はあなたには無いはずだ」

「権利！？権利と言ったのかい君は！おかしい事を言う人だ、犬が逆立ちするより面白い事言うね！権利なんてあつてないものだ、そんなもの何の価値があるとゆうんだい？目に見えないものの話は私は好きじゃない。」

「あなたの好き嫌いとは関係ない」

「いいからカウントダウンだ・・・3・・・2・・・1」

「クチャクチャ」

「それが君の意思か……よからう私は君を許さないからな」

プツン。

電話は切れた。

僕は煙草を口に含みガムとの味の共演を楽しもうとした。が、煙草の苦みばしった味しかない。

僕は動転して咽ながら煙を吐いた。

ガムの味を確かめる。しかしいくら噛んでも味がしない。他のガムを確かめる。

コーク、ソーダ、ブルーベリー、青りんご、アップル。

全部の味が消えていた。

すべてのガムを地面にぶちまけて、口に運んでは吐き出し、味があ
るガムを探す。

目からこぼれた水が僕の口に入っていく。

空を見上げる。

ソーダガムのような空だけが塩味があった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3197a/>

ガム。

2011年1月5日14時30分発行